

本を選ぶ

NO.470 2024年(令和6年)7月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>ピーツピ・チヂヂ

●選書の法則 : S. R. ランガナタンからの187のメッセージ(27)



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

ピーツピ・チヂヂ

春先にツグミが庭にやって来た。野鳥に詳しいわけでもなく、鳴き声がツグミに似ていると思っ込んでいた。出先の待合室で黒ツグミの鳴き声が流れており、それに近いと感じたから勝手にそう思うなんて我ながらあきれる。よくよく調べたら、体長が違う。庭のシラカシに止まっていたのはもっと小型の鳥で毛の模様や色も違う。とんだ勘違い。ツグミは冬鳥の渡り鳥で、秋にシベリアあたりからやって来て越冬、4月から5月には北に戻るらしい。見分け方としては、くちばしや脚が黄色ならムクドリで、頬が赤くて体が灰色ならヒヨドリ、目の上に白い眉毛があればツグミだそうだ。いずれもスズメよりは大きい。

ふと思出したのが、『動物たちは何をしゃべっているのか?』(山極寿一・鈴木俊貴 著/集英社/2023年)。「シジュウカラの文法を解明した気鋭の動物言語学者と京大総長(当時)にしてゴリラ学の権威による対談」である。植物が「しゃべる」と言われても引いてしまうが、動物、特に鳥となれば、ぐいと興味をそそる。一体何について鳴き交わしているのか。

この本の帯には、「「タカが来た!」と警告するシジュウカラ」という惹句がある。なるほどと買っ

たのだが、いつの間にか途中までで読みさしになっていた。ツグミは登場しないが、面白い。ウグイスのさえずりは「ホーホケキョ」だが、「ホー」「ホ」「ケ」「キョ」の組み合わせだそうだ。それぞれの要素に特別の意味はなく、単語にはなっておらず、さえずりの組み合わせは文法ではないという。(49頁) さえずり以外を地鳴きというそうで、言葉となるのはこの地鳴き。シジュウカラが発する地鳴きに文法があることを発見した鈴木さんは、ピーツピ・チヂヂが「警戒して・集まれ!」と解明。

もう1冊ツンドクがあった。『モーツァルトのムクドリー天才を支えたさえずり』(ライアンダ・リン・ハウプト 著/宇丹貴代実 訳/青土社/2018年)。帯には“モーツァルトがたった34クロイツァーで購入したペットのムクドリ”とある。1784年5月27日にウィーンのグラーベン通り的小鳥店で今なら6000円くらいで買った、と伝わる。

モーツァルトがムクドリ(ホシムクドリ)をペットにしていたという話は有名なのでこの本を買ったのだが、著者のあまりに克明な記述にささか飽きて中断していた。このアメリカのナチュラリストが追究するのは一種の実験だ。著者はモーツァルトと飼っていたムクドリとの関係をよりよく理解するために、捕獲したムクドリと暮らし始め、その驚くべき模倣能力に驚かされる。そしてモーツァルトのピアノ協奏曲第17番第3楽章の主題をムクドリがさえずった(!?)という逸話の真実味が増す。一方で、なんとムクドリは侵略的外来種ワースト100に名を連ねる害鳥だそうだ。(埜村 太郎)

選書の法則：

S. R. ランガナタンからの187のメッセージ (27)

吉植 庄栄

27. 7年目の青い春

1. 2回目の転職

平成30(2018)年に転職し盛岡で教壇に立つこと6年、諸事情で去ることになった。岩手山や北上川に代表される美しい自然、朴訥で人情味あり裏表が激しい人々、氷点下15℃にもなるためか好まれる辛くこってりした真っ赤な食べ物たち、どれもが素晴らしかった。自分はずっとここに住むと思っていたが、大きな力に引き寄せられ去ることとなった。これから起こることの期待もあるが、非常に残念である。この機会にこの6年を振り返ってみたいと思う。

2. 岩手での思い出

ランガナタン曰く大人の時間は「生計を立てるための仕事の時間」「余暇」「自らの創造性を発揮する時間」の3つに分けられるという。普通はこの3つが分裂している。幸せな人はこれらが統一されているとのことである。この定義から言えば、自分は大変幸せになった。図書館情報学と教育学に関する研究・教育で生計を立てつつ、それ以外の時間もほぼ何か関連活動・作業に専念していた。以下思い出深いものについて語ってみる。

(1) 授業文化

図書館現場の今を理解してもらいたいので、1人最低でも2館を見学や調査をさせ比較考察させるレポートを書かせていた。途中で1度提出させ添削して返却、指導を基に修正させ再提出させ評価を確定させる。自分が添削中は、レポート内容を講義内で順番に発表させていた。また、毎回の講義では、論文を読ませて所見を課題で書かせていた。司書課程の講義は大体3年生までに履修を終える学生が大半であるが、4年次に弟子入りし、図書館で卒論を書く学生は、論文作法の基本をみっちり授業で仕込むので、体裁の指導は不要で内容の指導に専念できるようになる。これを6年間続

けているうちに2つ不思議な文化ができた。

1つ目は、毎週の課題に立派な絵を描くような学生が出てきたことである。最初は余白にワンポイントの絵を描くケースが大半であったが、2年前くらいから裏面に大作を描く学生が出現した。特に昨年度は名作揃いであった。1人すごい絵師が出ると、他の受講生も相乗的に毎回すごい絵を描いてくる。画力が無い学生は紙芝居を作ってくるなど、これまた変な工夫をしてくるようになった。挙句の果て某アニメの主人公を私のように改変した漫画を裏に大きく描き連載作品が生まれるようになった。

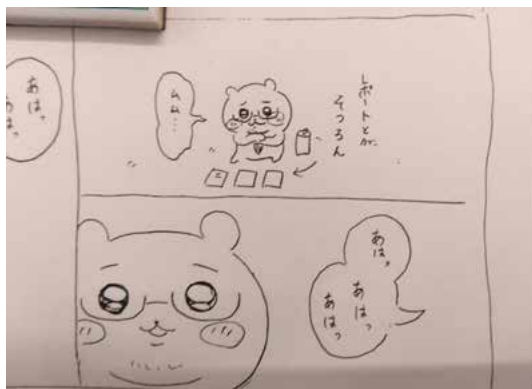


図1 課題(裏面)に描かれる連載漫画(『ししょかわ』)

次に動画文化である。これは新型コロナウイルス感染症蔓延下に遠隔講義を強いられた際に、オンデマンド動画を作成ししたら簡単だったことが発端である。そこで受講生にも作らせてみようと考え、動画発表に切り替えた。受講生は他の学生の発表動画を視聴して、評価やコメント、質問をフォームに入力するのである。これは効果大であった。動画をじっくり視聴できるので、対面の講義以上に理解が深まり、また入力されるコメントや質問が非常に充実した。何度も再生できるので、頭に内容をしっかり入れることができるようだ。

そして、学生の動画作成技術が回を重ねる内に向上していった。挙句の果て、動画職人同士で技を競い合う場となった。またオンライン会議システムの録画機能を応用して、人形劇で発表を行う

班も出た。余りに斬新・奇抜、面白過ぎて1か月くらい運転中に思い出してか急に嘔き出すことしばしばであった。これは嬉しい予期せぬ成功であった。

また、司書課程の履修が終わっても図書館の広報動画の研究を卒論で扱う学生や、司書課程PVの作成を依頼すると、こちらが驚くほど面白いものを納品してくれる学生も出てきた。

(2) 大学図書館の運営

令和2(2020)年度に大学図書館の副館長に任じられた。この件は以前この連載の15回目でも報告したが、結局4年務めた。その間に大学図書館員20年間の経験を活かして、他大学に比べて盛岡大学図書館の遅れていた点をアップデートしていった。しかし着任直後はほぼ新型コロナウイルス感染症対策に没頭することとなった。危機管理という面では、東日本大震災の経験があったがこの災厄は本質が異なる点も多く、その都度頭を悩ませたものである。先例が無いので、自分なりに判断して現場指示をすることが多かった。

その時に拠り所にしたのは、やはりランガナタンの『図書館学の五法則』であった。例えば最初の年の4～6月は閉館をせねばならなかった。しかし卒論を控えた4年生にとっては困ったこととなった。第二法則は「すべての利用者とその人の本を」である。必要としている4年生の手元に必要としている資料を届けねばならない。また第四法則は「利用者の時間を節約せよ。」である。となると可能な限り手間と時間をかけさせないようにせねばならない。もっと立ち返ると第一法則「本は利用するもの」である。休館中もなんとかして「利用」させねばならない。その結果、閉館によってやる必要が無くなった事業の経費を転用して、費用は図書館持ちで希望した本を配送するサービスを行った。『図書館学の五法則』はこのような非常事態の時には特に役に立つと思った。

そのほか、館内のリソースが足りずしばらく手掛けていない事業をリニューアルしたり復活させたりした。新生用の小冊子を全面リニューアル(『図書館指南書』)したことや、学生協働(図書館

サポーター)の復活、コロナ後ではあるが、ビブリオバトル岩手大会の移転開催ができた。



図2『図書館指南書』(2024年版)

新生小冊子は、前職の大学が作成し、他大学での流用が可能な『東北大学生のための情報探索の基礎知識』を手直しして作成していたものである。しかしそれは平成18(2006)年頃の話で、その後どうやら約

10年以上、惰性で刊行し続けている状態だった。もともと母体の『基礎知識』を含めて、新生生にはくど過ぎる内容であったこともあり、どこの大学図書館も止めてしまった事業だった。以前から疑念を感じていたので、一手に引き取ってリニューアルをした。内容を大幅に削減し、字を最小限にしてイラストを増やし薄い冊子にして、とっつき易いものになるように留意した。

また昨年度は職場の皆が得意分野を活かして協力した結果、大学機関別認証評価で学外委員から総評の「基準Ⅱ、学生」にて学内部局としては唯一高評価を得た。自分は直接的な貢献ができなかったものの、皆の活躍は頭が下がるとともに感無量であった。

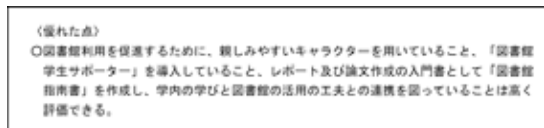


図3 大学機関別認証評価にて大学内で唯一の高評価



図4 マスコットキャラクター「モリダイフク」

これは、図書館のマスコットキャラクターを先頭に立てて全スタッフが館内を盛り上げた結果である。このキャラクターはあるスタッフが作成し、名前を公募で「モリダイフク」と決めたものである。

このスタッフは盛岡大学の卒業生で、在学中には図書館サポーターの一員であった。丁度、一度「図書館サポーター」が滅亡する直前に学生時代を過ごしたのであるが、マスコットキャラクターもそのころから素案を温めていたという。在学中にその力量を評価していたので図書館業界に入らないか期待していたが、彼女は卒業後地元の印刷業者に就職してしまい残念に思ったことを覚えている。

しかし数年後、ある切っ掛けで本人をスカウトして職員に採用してもらうことに成功した。その後、今度は復活させた学生協働の担当となった。学生時代に実現できなかったことに大いに取り組んで欲しいとは思っていたが、十二分な働きをしてくれた。

最後にビブリオバトル岩手大会であるが、以前から盛岡大学の図書館には荷が重い業務であった。また読売新聞からは、高校生大会の開催を相談受けていた。これらの課題を解消するため最後の1年は、高校生と大学生の大会を同日に岩手県立図書館で開催し、県図書館と読売新聞社の協力の下、私と先に述べたスタッフを中心とした有志で運営し無事に盛会で終わることができた。



図5 ビブリオバトル岩手大会：高大同日開催
(左：高校 右：大学)

一方、うまくいかなかったことも多々あった。特に現場改革である。優秀な専門職をそろえて岩手の中でも有数の大学図書館に成長させて行きたかったが、思うようにはなかなかならなかった。スタッフの入れ替わりが激しく、常に何かに追われている状況であった。また他の図書館への異動が無い職場で井の中の蛙にならないよう、他館の見学と交流を頻繁に行うことを目指していたが、コロナがブレーキをかけた上、長く勤務した職員の腰が重い気質が輪をかけてほぼ実現しなかった。

次に、皮肉なことにこの連載を持つ自分は、選書業務に向いていないことも痛感した。前の職場を真似て選書関連資料を全員に回覧し、推薦資料を付箋

に貼るように仕組みを改めたものの、自分がそれを溜め込んでしまって速やかな選書業務にブレーキをかけた。現役時代にもその傾向はあったので、今考えると自分の失策であった。この連載で理論は伝えるが、実務はからっきしダメである。関係各位に詫びるとともに、今後は自分が選書実務に首を突っ込むことを止め、スタッフの挙げてきたものをチェックするような業務に専念したいと思う。

(3) 図書館運動

大学の教育・研究、そして大学図書館の運営以外に、地域の図書館運動にもかかわった。

岩手県と盛岡市の図書館協議会委員を拝命し、県立の方は会長を4年間務めた。思い出は何と云っても岩手の公立図書館の振興策策定に関わったことだろう。県立図書館は平成18(2006)年から指定管理者に現場の業務を委託している。受託先のTRC(図書館流通センター)は現場運営をしっかりとこなし約15年が経った。その間、直営時代の司書は定年退職でほぼ居なくなり、図書館の現場経験の無い県庁職員が管理業務を行うようになった。TRCの現場運営は盤石で、図書館をよく知らない県職員でも十分勤まるようになったのである。委託との理想の分業が完成したように思えるが、その結果、県の図書館政策を考える層が居なくなってしまったのである。元紫波町図書館館長の工藤巧氏が委員の時にそれを指摘し、紆余曲折を経て館長諮問に対する答申作成という形で検討が始まった。時間はかかったが幸い先日、令和6(2024)年6月に一定の方針が策定されて岩手県教育委員会に上申された。

地方自治法の改正で、自治体の部署の民間委託が可能になって約20年である。この問題は他の自治体にも共通であるので、先例になると良いと思う。

次に各種研修講師を多数務めた。図書館のスタッフ研修をはじめ、県内の新任館長研修も担当した。加えて学校図書館担当者悉皆研修は、岩手のほとんどの教育事務所管内で登壇させて頂いた。今現在、何故かおひぎ元であった盛岡教育事務所を残すのみなので、担当者の方のオファーをお待ちしている。もちろん研修内容は、ランガナタン研究の成果を中心として全て行ってきた。宮城でもそ

うであったが、図書館現場でもランガナタンや『図書館学の五法則』を知らない人は多く悲しみも感じたものの、やり甲斐ある仕事であった。

最後に、全国図書館大会岩手大会である。令和5(2023)年11月に開催されたこの大会は、実行委員会委員として職責をかけて尽力した。特に大学図書館分科会を中心に他の主要分科会のテーマや内容への助言、登壇者の仲介など多岐にわたって準備期間中に力を注いだ。また当日は盛岡大学生を30人以上ボランティア動員し、県立図書館職員等運営スタッフの補助をさせることができた。運営側が助かるとともに、大学生達に多くを学ばせることができた2日間であった。運営事務局と学生たち、すべてのかかわった皆さんに御礼申し上げる。

3. 新しい職場

以上、ここに書き切れなかった仕事や思い出も多々ある。本当に良い6年間であった。名残惜しい中、20日間をかけて研究室を片付け3月末に退去した。4月には、東日本大震災時のかつての職場の一角に拝領した居室に荷物を搬入した。何の因果か、震災時には東北大学の敷地であった一部を東北学院大学が買い取り、そこに建った建物に入居することとなったのである。震災から数えて12年を経た干支一巡の春である。大学は異なるものの、この巡りあわせには何か意味があるのでは

ないかと思う。まだ明確に何をすべきかが見えてこないが、気持ちを新たに頑張っていきたい。

4. 宿題

昨年度の新入生に、高1の時に私の文献探索講習会を受講したのが切っ掛けでわざわざ宮城県から盛岡大学に進学した者が居た。自分を追いかけて来るなんて奴が今生に居るの? と驚くともに、移籍する話が水面下で進んでいたので大変申し訳なくも思った。本人には直接移籍の話を年度末にしたが、案の定、激しくショックを受けると同時に深く悲しんだと後で聞いた。こちらは悔いなく1年指導したつもりではあったが、やはり申し訳なかった。

この学生をはじめ、やっと盛岡で軌道に乗りかけた事業や今後も私に習っていこうと思っていた学生、そして連携していこうと考えていた皆さんに、今回とてもがっかりさせることとなった。ここでもお詫びである。仙台に居ながら東北全体、特に岩手のことは重視して携わって行こうと思っているので寛恕頂くとともに、今後ともよろしくお願ひしたい。特にこの者には罪滅ぼしで、有形無形の援助を惜しまないようにしようと絵空事のようなことを考えている。その結果、20年後の東北の図書館界を支える人材になってくれればと常々思う次第である。

(よしうえ しょうえい：東北学院大学文学部)

DMがたろく



源氏物語を知る事典 新装版

装丁に
漫画家 山田南平さんの
装画を採用
西沢正史 編
定価 3,300 円
(本体 3,000 円 + 税)
ISBN 978-4-490-10938-2

不朽の大作「源氏物語」のストーリー展開、人物関係、時代背景、作者像、文学作品としての影響や関係資料などまるごと理解出来る事典。探求学習・レポート作成にも役立つ1冊。



渋沢栄一を知る事典

公益財団法人 渋沢栄一記念財団 編
2024年
新「方札」の
肖像画に
定価 3,080 円
(本体 2,800 円 + 税)
ISBN 978-4-490-10824-8

多くの企業・団体の設立・経営に関わり日本資本主義の父といわれる渋沢栄一。社会事業や民間外交にも尽くした人物像と業績をコンパクトにまとめた実業家 渋沢栄一を知る最適な入門書。

株式会社 東京堂出版 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-17
TEL 03-3233-3741 FAX 03-3233-3746

ESTRELA

■2024年7月号
No.364/7月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

【特集】オープンソースGIS「QGIS」の実社会への応用

- オープンソースの空間情報ソフトウェア QGIS —/
嘉山 陽一 (OSGeo.org)
- 政策立案におけるQGIS×3D都市モデルの活用
～社会実装が進むPLATEAUの実践例～/
内山 裕弥 (国土交通省 総合政策局 モビリティサービス推進課/情報政策課 総括課長補佐/前Project PLATEAU プロジェクト・ディレクター/PLATEAUアドバイザー)
- GIS×報道の可能性について/
齋藤 恵二郎 (日本放送協会 ネットワーク報道部 記者)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5 階
TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

エマヌエーレ・コッチャ／
松葉 類 訳

家の哲学

家空間と幸福 幸福の実験場たる家をめぐる哲学エッセー。 2750円



パトリシア・ヒル・コリンズ／
湯川やよい・松坂裕晃・佐原彩子・
藤浪 海 訳

インターセクショナルリティの 批判的社会理論

「インターセクショナルリティ」を研ぎ澄
ます。重要文献の初訳。 4950円



勁草書房

TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

引き上げのイギリス式教育、 底上げの日本式教育



土屋明日香 [著]

「当たり前」を問い直す

8月上旬刊

日本で幼児教育・学校現場の心理職として活躍していた著者が、突然イギリスで子育てをすることに!

そこで見てきたものとは? 神田橋條治氏 推薦!

●定価2200円(税込) ISBN 978-4-535-58789-2

ラーニングダイバーシティ の夜明け

多様な学びを選択できる
教育のために

苫野一徳氏
推薦!

村中直人 [著]

●予価1980円(税込)

8月上旬刊

ISBN 978-4-535-58792-2



日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nipponyoko.jp>

鉄道と歩んだ台湾の130年

19世紀末、ドイツ製の蒸気機関車が台湾に到着した。日本統治時代を経て、現在に至るまでの台湾鉄道の歴史を描いた初めてのビジュアル・ブック。

台湾の鉄道博物館館長の著者と、台湾の大人気イラストレーターによる夢の共演が実現した話題作、待望の邦訳!

A4判 / 56頁 / フルカラー
定価2,530円(税込)



古庭維 [著] / Croter [絵] / 栗原景 [監修] / 倉本知明 [訳]

台湾鉄道



白水社

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24
www.hakusuisha.co.jp/ tel.03-3291-7811

第40回

香・大賞 作品募集

「香り」について自由に表現したエッセイを募集します。

応募規定：800字

審査員：鷺田 清一・池坊 専好・澤西 祐典・畑 正高

賞・副賞：金賞1名 副賞30万円 他各賞あり

締切：2024年11月30日(土) 当日消印有効

発表：2025年6月下旬

応募票のご請求・お問合せは 香老舗 松栄堂「香・大賞」係まで

〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL.075(212)5591

※応募票をご請求ください。入賞作品集『かおり風景』を送付いたします。

香老舗 松栄堂WEBサイトで「香・大賞」の情報をご覧いただけます。

Facebook「かおり風景」で過去の入賞作品を定期的に投稿しています。

主催：「香・大賞」実行委員会・香老舗 松栄堂

後援：環境省・日本経済新聞社 大阪本社

www.shoyeido.co.jp



女性法律家 復刊版

三淵嘉子(元裁判官, 元弁護士) 執筆者代表

今から40年前の昭和の時代に、13人の法律家が「自身の言葉」で語った、法曹の世界、そして自らの仕事や後進へ託した熱い想い。いつの時代も、人が真摯に取り組む姿は、美しく、カッコイイ。

そんな感動と共感が得られる名著、ここに復刊。



四六判並製 276頁 2,530円



有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は
税込

アダルト 横道 誠

1870円

チルドレンの 教科書

回復のメタメソッド

親による虐待、発達障害、宗教2世、PTSD…多重当事者だからこそ書けた、物語形式によるアダルトチルドレンの回復メソッド。

晶文社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>